

提案するシステム～次の手順により学習項目を設定する

1. 「コミュニケーションなゴール（※）」を設定する。※最終的な到達目標＝最終的な評価の対象となる成果物／パフォーマンス
2. そのゴールに到達したことを示す「証拠」を手に入れるテストを考える。
3. そのテストに合格するためには（そして良い成績をとるためには）学習が何を知っていてどんなことができればよいかをリストにする。
4. そのリストの項目を1つずつ消化するためにはどのようなゴール（より小さなゴール）を設定すればよいかを考える。
5. [2]に戻って、同じ作業を繰り返す。それ以上、小さなゴールに分解できなくなったら、そこで学習要素設定は終了する。

言語運用能力指標

- レベル1**
- ・自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば簡単なやりとりができる。(対人)
 - ・自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。(提示)
 - ・よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。(解釈)

- レベル2**
- ・自分が想定している範囲で、学んだ語句や文から選択して、相手の協力を得られればやりとりができる。(対人)
 - ・自分にとって身近な事柄を、短い語句や文を並べて表現することができる。(提示)
 - ・よく耳にしたり目にしたりする語句や文を理解することができる。(解釈)

- レベル3**
- ・自分が想定していない状況においても、学んだ語句や文を使って、相手の協力を得られれば、ある程度創造的なやりとりができる。(対人)
 - ・自分の身の周りや関心のある事柄について、ある程度まとまった内容を、趣旨が通じる程度に表現することができる。(提示)
 - ・ある程度まとまった内容を、辞書の助けを借りたり、事前に関連情報を得たりして、理解することができる。(解釈)

- レベル4**
- ・自分が想定していない状況においても、ある程度創造的なやりとりができる。(対人)
 - ・より広い範囲の事柄について、少し複雑かつ抽象的である程度まとまった内容を、より正確で適切な語句や文を使って表現することができる。(提示)
 - ・ある程度まとまった内容を理解することができる。(解釈)

言語運用能力指標のレベル1と2を、以下3つの外国語運用能力基準に照らすと、①のNovice Low/Mid、②のBeginning/Transitional Level、③のA-1/A-2（基礎段階の言語使用者）レベルにおおよそ相当します。

①Proficiency Guideline, ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages), U.S.A. 1986 (全米外国語教育協議会の学校教育用4技能言語運用能力基準)

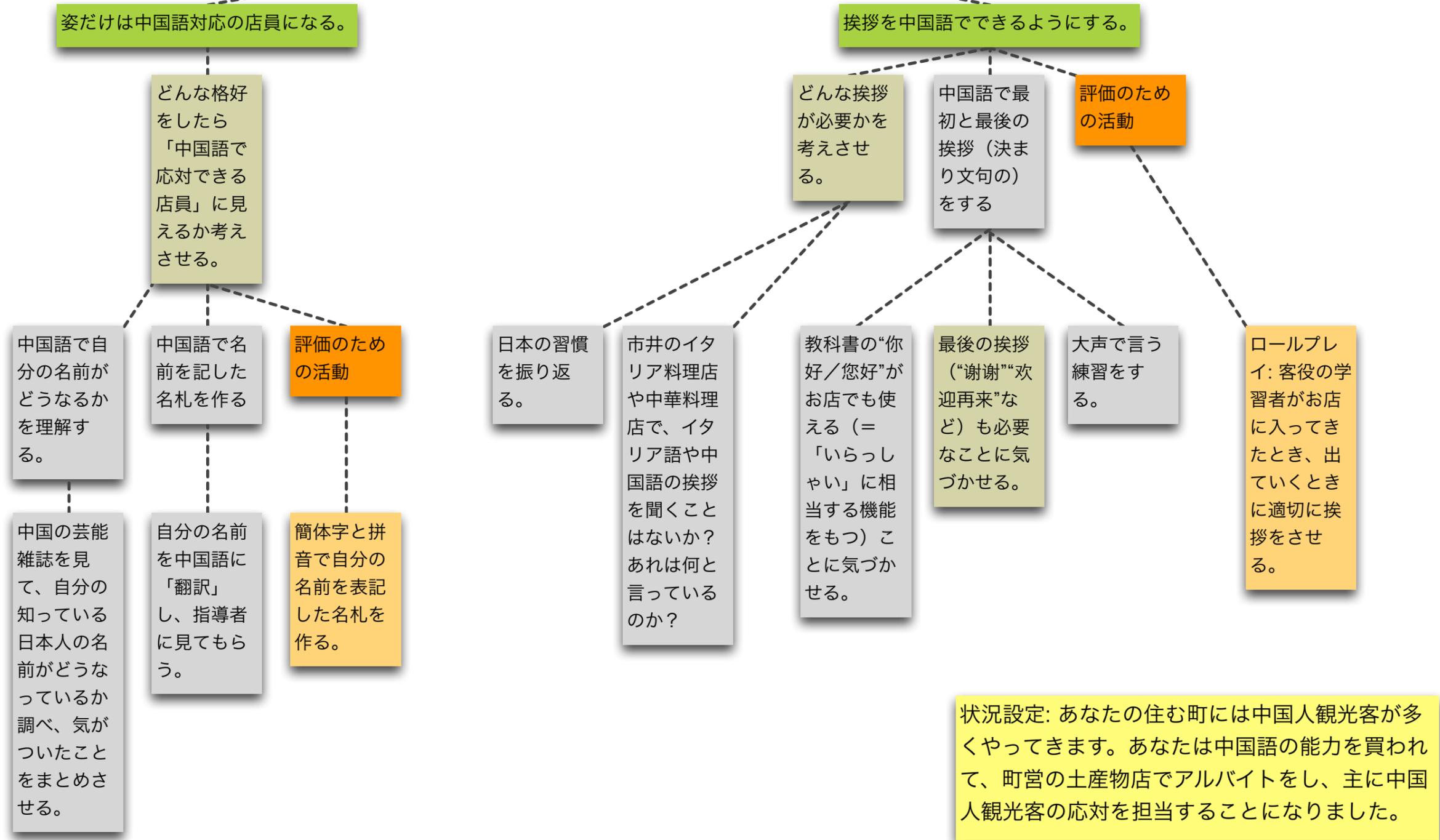
②Japanese for Communication, A Teacher's Guide, Wisconsin DPI, U.S.A 1996 (米国ウィスコンシン州教育庁編『日本語教育用カリキュラムガイドライン』)

③CEFR (Common European Framework of Reference for Languages, Council of Europe 2001. 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)

資料1

『外国語教育のめやす』
の指標

「中国語で応対ができる店員」として、自分の住む地域の特産品を紹介できるようにする。



教科書第1課の知識項目と対応

「中国語で対応ができる店員」として、自分の住む地域の特産品を紹介できるようにする。

商品の簡単な紹介をできるようにする。

地域の特産品を売る店ではどのような物を売っているかを理解させる。

商品の名称を表現できるようにする。

上位語を使って商品の分類をできるようにする。

簡単なコメント（形、色、味）を付け加えられるようにする。

実地調査をしてレポートにまとめる。

「これはxxと言います」という文型を導入する。

評価のための活動

「これ／あはれは～です」と指示する

<概称>を使って大まかな分類をできるようにする

評価のための活動

色と形と味を形容する語彙を習得する。

色・形・味を表現する構文を習得する。

評価のための活動

第1課で学習した“叫”が物の名前に使えることに気づかせる。

指示詞を導入

音訳語をつくる遊び

名産品の名称を中国語に翻案する遊び

予め学習者が選んで準備しておいた品物を紹介する（名称と分類のみ）プレゼンをさせる。

指示詞を導入

前の課に戻って“是”を導入

“一种玩具”“京都的点心”などの組み合わせでかなりのことが表現できることに気づかせる。

自分の持つ語彙を駆使して「一种○○」「xx的○○」の形で、いろいろな物を説明する。

「特産品を売る店」のレポートから、どのような概称が必要かを考える。

“食品、飲料、点心、玩具...”などの概称を学習

第1課の「国名」を再提示して<地名>が中国語でどう表されるかを提示する。

特産品を紹介するためにはどのような色・形・味に関する語彙が必要化を考えさせる。

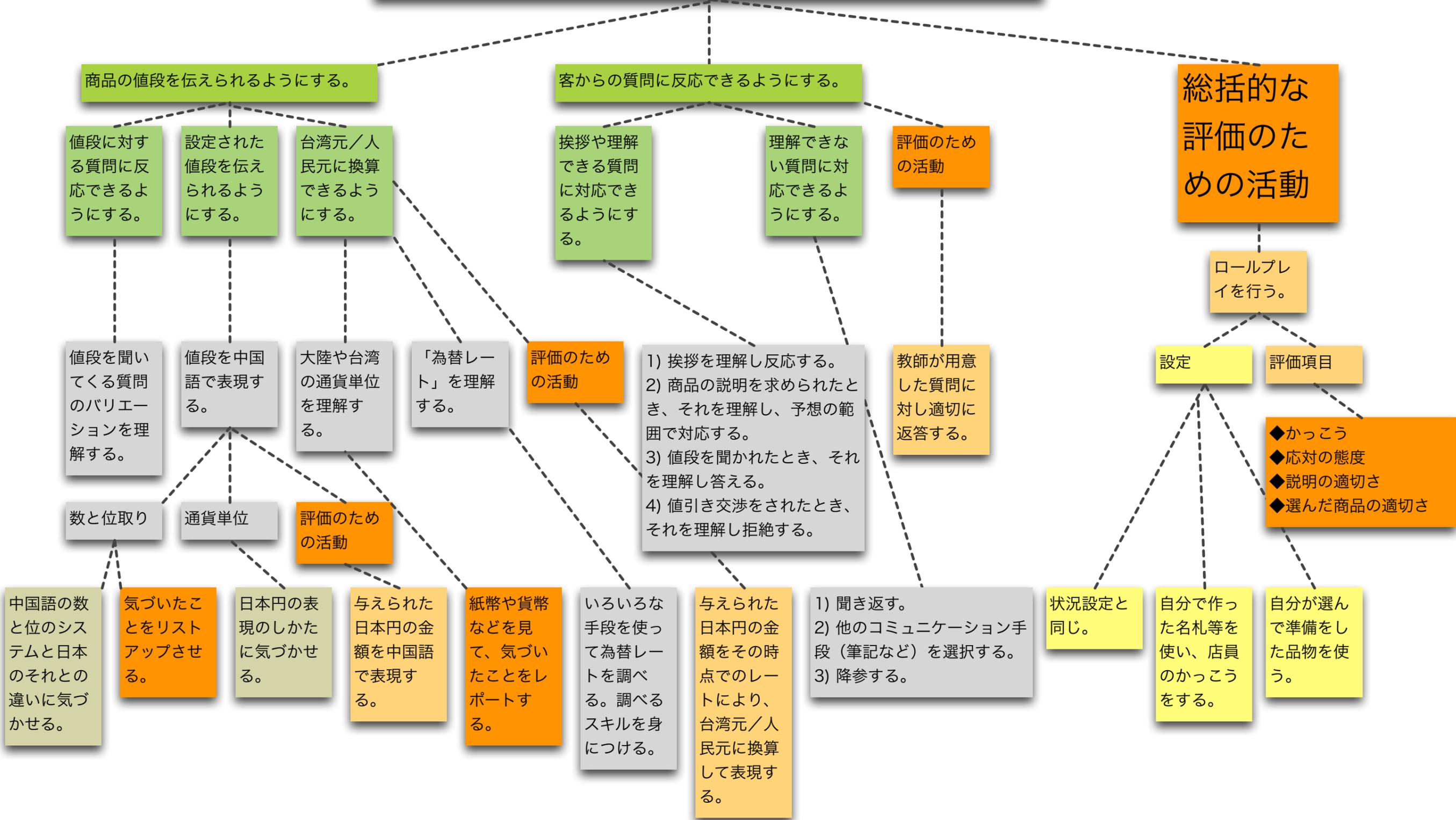
色・形・味などを表現するにはどのような構文が必要かを調べさせる。

予め学習者が選んで準備しておいた品物を紹介する（色・味・形に関するコメントを含む）プレゼンをさせる。

教科書第3課の知識項目と対応

教科書第2課の知識項目と対応

「中国語で応対ができる店員」として、自分の住む地域の特産品を紹介できるようにする。



教科書第4課の知識項目と対応

【資料2】

『新版1年生のためのコミュニケーション中国語』（白水社）の構成

	ビルトインされた学習項目	ビルトインされた「場面」
1	人称代名詞 “是”，“也是～” “呢”省略疑問文	中国人と会って自己紹介
2	指示代名詞（这，那） “吗”疑問文 “不”否定文 “什么”疑問文 ＜名詞＞的＜名詞＞	これは中国の点心です
3	指示代名詞（这个，那个） 形容詞述語文 “怎么样”述語文	店で服を買う
4	数詞 命令“吧” 動詞・形容詞＋数量補語 金額	道端で買い物
5	場所指示代名詞 動詞“在” 助動詞“要”“想” 場所化をする“-里” 方位詞	ホテル内の施設の場所を聞く
6	“有”所有 名詞修飾“什么” 助数詞	レストランで注文
7	時点の表現（日単位） 時点の表現（一日の中で） 時点の表現（時刻） [時点の表現]＋動詞 動詞＋時量＋目的語	長城に行く相談
8	文末助詞“了” 否定詞“没有” “不”否定と“没有”否定 “还是”選択疑問文	ホテルで部屋を取る
9	前置詞“从”と“到” 二重目的語を持つ“给”	タクシーに乗る
10	助動詞“可以” 助動詞“能” 助動詞“会” 前置詞“在” 動詞の重ね型	デパートで試着
11	前置詞“给”を使った文 “是”の無い名詞述語 “去/来”＋動詞句	ホテルでトイレが壊れた
12	“是...的” 番号の表現	サイフを無くして紛失届